

有坂さんをしのぶ

佐藤 十五郎

有坂さん、あなたは9月26日、満55才の誕生日を目前にしてゆかれた。8月中は仕事に余暇を見つけてのゴルフに精を出しておら

れたので、はたの目にもそれほどの病気とも考えられないくらいだった。9月上旬にペルーに出張することになったとき、「どうも食欲がすすまぬ。一回よく診て貰わねば」との事での発見であった。しかも医者に自重と入院をすすめられながらも、従来手がけていた吉野川の発電計画を何とか目鼻をつけたいと9月6日松山で開かれた協議会に遠路出席、帰京後も入院の直前まで一刻を惜しんでの仕事の打合せであった。「有坂さんの趣味は仕事である」といってしまえば固苦しくもなるが、事実、彼は暇さえあれば、参考文献に目を通していた。恐らく生涯を通じて、週刊紙とか、娯楽雑誌の類は手にされたことはないのではなからうか。しいていえば謡、小唄、囲碁、ゴルフくらいのものであろうか。謡、小唄は有坂節と称されるほど彼独特のもので、その意味では一派をなしていたともいえるかも知れない。碁の方は2段になったはずで彼らしいケレン味のない風格のある碁であった。最近はおっぱらゴルフに熱中していて日曜ごとに弱敵をさそい合わせて出かけていた。ハンディは26、彼ほど練習をしないゴルファーは珍らしい。スタート前には大ていの者はバターの練習くらいはするものだが、彼はそれすらもほとんどしなかった。1番ティーでのショットが練習も何も合めての第一打というわけで、だからボ

ールもまともに飛んでくれずにラフに入ることが多かったが、彼ほどまた泣きごとをいわぬ人も珍らしい。黙々と歩み入ってまたハッシと打つ。ハッシ、ハッシと打つのでアプローチは決してうまい方ではなかった。しかし総体として26の実力は十分あった方でプレーも早いしまた、何ともいえぬ愛敬がにじみ出ているので彼とパートナーとなるのを皆好んだものだ。6月に仲間のコンペがあって彼は優勝し以来病にたおれる8月末まで彼のクラブは馬鹿に調子が出て仲間からチョコレートを相当まき上げたはずである。有坂さんは学校を出るとすぐ東京電灯KKに入社、続いて大同電力KKに転じ、木曾川筋の発電所の設計、施工に従事して水力屋としてのスタートを切った。昭和14年には北支の利水科長として黄河はじめ各河川の調査計画に参画した。昭和17年には朝鮮電業並びに鴨緑江水電の土木課長として若手設計陣を率いて、あの大水力発電所群の開発の推進力となった。終戦後は間組の技術局にて各地点の施工計画の立案に従事、昭和27年電源開発KKに入社して以来、練平建設所、北山川建設所の所長、本店土木計画部長、総務参事を歴任しての業績はこと新しく書くまでもないであろう。有坂さんは、地点の計画立案については卓絶した頭脳の持主であった。碁の名人が一石を打つにも幾十通りの筋を組立ては消し、組立ては消して局面をまとめてゆくように、データを一読すると幾通りもの計画がつかからつきへと浮んでくるらしく、それらを整理して一つにまとめて、この案はどうだ、これにもとづいて調べて見ようではないか、とたちどころに示されるのには驚歎したものだ。今、水力電力界は誠に多難の時代である。このときに有坂さんのように卓絶したアイディアマンを失ったことは誠に大きな損失である。

(筆者：正員 電源開発KK水力調査部長)

日本鉄鋼協会賞受賞候補募集

日本鉄鋼協会では、鉄鋼に関する学術、技術の奨励の目的をもって服部賞、香村賞、俵賞、渡辺(三郎)賞、渡辺(義介)賞および渡辺(義介)記念賞の各賞の受賞候補を募集しています。詳細は土木学会または直接日本鉄鋼協会へお問合せ下さい。

申込期限：1963年11月15日(金)

送付先：土木学会(東京都新宿区四谷一丁目・電351-5138)

問合せ先：土木学会()

日本鉄鋼協会(東京都千代田区宝町2の4 第二ねり彦ビル 電535-5658)

大型供試体 (300φ × 600mm) を用いる

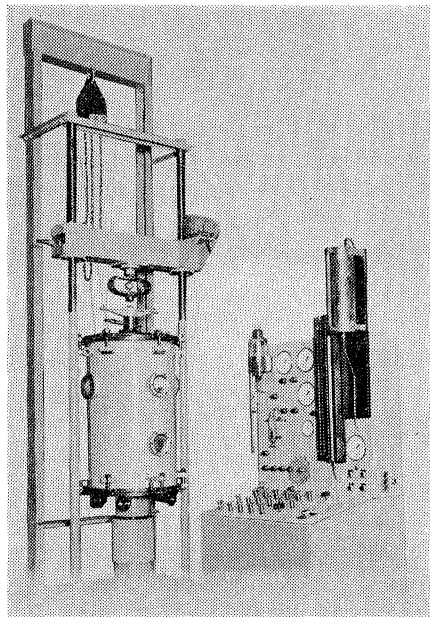
三軸試験装置 (S18G)

機能：(詳細に就ては下記参照)

1. 全電動油圧式四本柱型載荷装置
静的試料締め成型用アタッチメント (300mmφ 用)
着脱用電動チェーンブロック付
2. 容量 垂直最大荷重 10Ton
側圧(水平)最大荷重 10kg/cm²
3. 適用供試体 300φ × 600mm
最大混入礫粒径 50~75mmまで

概要：現在多く使用されている三軸試験装置は、主に大粒子を含有しない小型供試体用に設計・考案されております。然し、路盤盛土、アース・ゴム、築堤等の実際の工事には砂礫を含有する材料が使用されております。大粒子を含む供試体とこれを含まない小さな供試体とは、必然的に性質が異なりますので小型の供試体用の装置でこれ等の土を試験するのは不適當です。

写真に示す装置は以上の目的を達するために大型供試体用に設計された最新型の装置であります。油圧ピストン部は床面下(約：深さ 700 × 巾 1060 × 奥行 770mm)に設置され、床面と三軸室設置位置を同一にしてあり、三軸室はレール上を移動します。計測部(約：高さ 1950 × 巾 1060 × 奥行 770mm)は軸荷重及び横圧負荷用の駆動装置と計測装置とのすべ包含したコンパクトな型式となっております。



構造仕様

1. 供試体の成形：試料は三軸室底盤の上に直接据えた継足式の型枠の中に投入し、電動油圧式の本体荷重棒を利用して静的に成形することができます。従って、供試体の成形は極めて確実に簡単に行なえます。
2. 三軸室の設置：後方荷重棒の電動式チェーン・ブロックで吊り上げ、レールを移動する底盤上に容易に設置出来ます。上部蓋取付けも同じ操作で行なえます。
3. 三軸室：鋼製円筒で視窓・明り取入れ窓等が設けられており、鉋金製上下盤、オイル・シール式載荷ピストン、試料台およびキャップより成り、締め付けボルトにより密閉されます。
4. 加圧機構：垂直荷重は電動油圧歪制御方式で、歪速度は可変、側圧(水平)荷重は電動空気圧縮機による蓄圧水槽式
5. 間隙圧の測定：ノルウェー型(U字型)毛細管水銀面を利用した圧力平衡式
6. 歪量の計測：ダイヤルゲージにより100mmまで計測可能
7. 体積変化の計測：体積変化をビニール管により計測
8. 試料飽和：真空吸引による飽和方式
9. 使用電力：アッパーヘッドの昇降その他を含め 2KW 200V 3相
10. 機高：床面上約3600mm

他日御紹介予定のその他の三軸試験機	
スミス三軸圧縮装置 A 111	アスファルト舗装用混合物の配合設計用 適用供試体寸法：3.82inφ × 8in
高圧三軸圧縮試験機 S 69	岩石・コンクリート供試体等に適用 適用供試体寸法：100φ × 200mm

カタログ、その他不明の個処につきましては下記へお問い合わせ下さい

連絡先：東京都江東区深川白河町2の7 株式会社 丸東製作所 営業部

TEL
東京
(641)
2661
7749
8735
1009